「この人の話が聞きたい」参加者の活動紹介 vol.2

第 5 次総合計画の事業として令和 3 年度からスタートした「チームみやしろ会議」では、町内外で活躍しているゲストのお話をきっかけに参加者同士が交流し、新たなアイデアやつながりを生みだす場として、「この人の話が聞きたい（通称：このハナ)」を開催しています。

これまでに全 25 回、のべ約 620 名にご参加いただき、「このハナ」をきっかけにさまざまな活動が行われているところです。町では、今後もキープレイヤーの発掘やつながりづくりの場の提供を継続するとともに、新たに誕生した活動の紹介などを行い、さらなる広がりを目指していきたいと考えています。

今回は、「このハナ 13」のゲストだった北原久仁香さんにお話を伺いましたので、ご紹介します。

【北原（きたはら）　久仁香（くにか）さん】

◀北原さんの Instagram

2022 年 10 月に開催された「このハナ 13」のゲストスピーカーのお一人。都内在住。
同年 12 月に開催された「このハナ 14」では司会を務める。
ナレーター、語り手、「語りと和楽の芸人衆〈かたりと〉」のメンバーとして活動している。
↓宮代町で行われた公演↓
2020 年 2 月「進修館チャレンジ企画　かたりと和 LIVE 進修館」
2022 年 8 月「ひとり語り『1950 年のバックトス』」@進修館
2023 年 9 月「村の寶（たから）」@進修館（第 17 回甲馬サロン）
2024 年 10 月「村の寶」@郷土資料館

宮代町との出会い

Web でたまたま進修館小ホールの写真を見たとき「ここで表現したい！」と思った北原さん。宮代町との最初のきっかけは進修館チャレンジ（※1）でした。「進修館チャレンジへ応募し、その準備で初めて来ました。作家の北村薫（※2）さんが生まれ育ったのはこういうところなのか。確かに離れたくない、住んでいたいと思う地域だなと実感しました。」と語ります。それからは、ここを活動拠点の一つにしたいという気持ちが強くなったそうです。

進修館での公演や「このハナ 13・14」で宮代高校放送部と交流

北原さんは、その後も進修館を舞台にした公演やこのハナに出演。それが宮代高校放送部（以下、放送部）とつながり、交流を深める機会となりました。「最初のきっかけは、当時放送部の顧問だった両角先生が、『1950 年のバックトス』の公演を観てくださったことです。作品への想いも強くお持ちで、（『1950 年のバックトス』を）放送部が出場するコンクールの題材になさいました。その後、このハナ 13 もご参加、両角先生たちがお話しされた会（このハナ 14）で私が司会を務めて交流が深まりました。」と北原さん。

宮代町・杉戸町の公演を放送部が撮影協力

2024 年 3 月には、杉戸町で北村薫さんの作品を上演することになった北原さん。北村薫さんの地元で、しっかり記録に残したいと、このハナを通じて交流を深めた放送部へ撮影を依頼しました。

その後、10 月の「村の寶」の公演が決定。その際には、秋の大会に向けて資料館で「島村盛助（※3）」を調べていた放送部が北原さんの公演を知り、再び記録係を引き受けてくれたそうです。

▲ひとりがたりの公演をする北原さん（奥）と
その撮影をする宮代高校放送部（手前）

北原さんが感じた宮代の魅力

「進修館チャレンジ、『1950 年のバックトス』、このハナなどで地元の人たちとつながりができ、築 210 年の旧加藤家住宅での本番も実現しました。不思議なご縁を感じます。いいなと思って働きかけても片想いで終わることが多いけれど、宮代町では続いています。住んでいる人たちのセンスも高いと感じます。」と宮代町の魅力を話す北原さん。宮代町の好きなところを尋ねると「郷土を大事にしている、表現を受け入れてくれるところが一番好きなのかもしれません。」と教えてくれました。

▲築 210 年の旧加藤家住宅で「村の寶」を演じる北原さん

これから

宮代町立図書館でも北村薫作品のひとり語りをしたいと抱負を語る北原さん。図書館の雰囲気も気に入っているそうです。その他に和戸教会でも演（や）りたい作品が多々あり、建物も素晴らしい宮代町への魅力は尽きません。

また、放送部員の将来の夢を聞いたり、ご自身がナレーターを目指したきっかけを話したり、和やかな雰囲気でコミュニケーションをとっていた北原さん。学生時代に放送部で活動したかったという思いも強く、宮代高校放送部には憧れも抱いているそうで、「今後も応援したいです。」と語っていました。

「村の寶」公演後に笑顔で記念撮影をする北原さん（中央）と▶
宮代高校放送部の 2 年 髙山さん（左）・3 年 木村さん（右）

※1　進修館チャレンジ…進修館の施設を利用して新たに音楽・アート・演劇等の講座・催し等を開催したい方の提案を募集した企画。
※2　北村薫…杉戸町出身の小説家。北原さんと親交があり、幾多の作品をひとり語りの題材にしている。
※3　島村盛助…宮代町を代表する英文学者で作家。2024 年で生誕 140 年を迎えた。

関連情報

【宮代高校放送部】
現在 2 年生 2 名　3 年生 7 名で活動。校内放送や学校行事の運営、春・秋の大会に向けた作品制作を行っている。過去、多数の作品が全国大会や関東大会入賞。町民まつりをはじめとして、数々の行事でアナウンスを担当し、地域貢献にも積極に取り組んでいる。2023 年 7 月からは、町広報のダイジェスト動画のナレーターも行う。
2022 年 12 月、当時顧問を務めていた遠藤先生・両角先生が「このハナ 14」にゲストスピーカーとして出演し、宮代高校放送部の活動を紹介した。
今回の記録係では、「島村盛助を宮代町以外の人にも知ってもらおう。自分たちが作品にすることで全国の高校生に知ってもらえるのではないかと思い取り組んでいます。」と意気込みを語った。
↓主な受賞作品↓
2020 年テレビドキュメント「シメノさんのわらじ」　全国大会出場
2021 年テレビドキュメント「しずかなおひるに」　全国大会優秀賞
2022 年テレビドキュメント「三方よし」　全国大会入選
2023 年テレビドキュメント「緑の縁（バトン）」　全国大会審査員特別賞
2023 年オーディオメッセージ「笑顔の味方」　関東大会出場
2024 年テレビドキュメント「はじめの一歩」　全国大会入選

▲放送部の HP